

## シジュウカラガン（カモ科） 全長55～67センチ

### その1

大仙市には滅多に飛来しないシジュウカラガン。

2月15日、田んぼには雪がほとんどなく、約100羽のコハクチョウが羽を休めていた。他の種もいないかと双眼鏡で眺めていたら、マガン数十羽の中にシジュウカラガンが見つかった。暖冬とは言え北の繁殖地に向うにはまだ早く、宮城県伊豆沼周辺と大湊村を移動する途中に立ち寄ったものと思われます。



手前のマガンと後ろのコハクチョウに挟まれるシジュウカラガン。

### その2

ハクチョウが渡りの途中に、中継地点としてよく利用する大浦沼。

シジュウカラガンは、上空からハクチョウの群れを見て、安心して降り立ったものと思われます。10羽のシジュウカラガンは頭を下げ、歩きながら餌を探している。

暖冬の今年は雪もなく、落穂とか稲の根を食べるには都合が良いのでしょうか。マガン、シジュウカラガンは警戒心が強い野鳥ですが、ここでは緊張感が感じられません。



夢中になって餌を漁る。



翼を広げた。

### その3

ここは退避場所の沼もあり、田んぼには食べ物があることから、長旅に向けて栄養を蓄える条件が揃っているのです。

しかしシジュウカラガンとマガンは長居はせず、ハクチョウさんを残して次の目的地へと飛び立って行きました。日本では一時絶滅の危機にありましたが、長年に渡る国際的な復元計画が功を奏し、いまでは大潟村を中心に2000羽まで復活してきました。大仙市内でも観察できるまでになったことは、こうした努力があったお陰と感謝しております。



頸の付け根に白い輪がある。



コハクチョウと比べ、こんなに小さい。